

製品名: MRG15 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14085**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|----------------------------------------------------|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000 |
| 分子量 | 41kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 遺伝子名 | MORF4L1 |
| 別名 | MORF4L1; MRG15; FWP006; HSPC008; HSPC061; PP368; Mortality factor 4-like protein 1; MORF-related gene 15 protein; Protein MSL3-1; Transcription factor-like protein MRG15 |
| 遺伝子 ID | 10933.0 |
| SwissProt ID | Q9UBU8 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト MORF4L1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80 |

背景

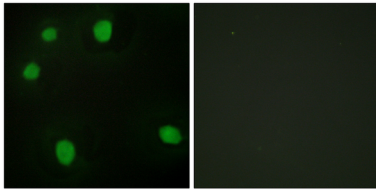
機能: NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ (HAT) 複合体の構成要素であり、主にヌクレオソームヒストン H4 および H2A の

アセチル化によって特定の遺伝子の転写活性化に関与する。この修飾はヌクレオソーム-DNA相互作用を変化させ、修飾されたヒストンと転写を正に制御する他のタンパク質との相互作用を促進する可能性がある。この複合体は、がん遺伝子およびがん原遺伝子を介した増殖誘導、腫瘍抑制因子を介した増殖停止および複製老化、アポトーシス、および DNA 修復に関連する転写プログラムの活性化に必要である可能性がある。NuA4 複合体の ATPase およびヘリカーゼ活性は、少なくとも部分的には、RUVBL1 および RUVBL2 と EP400 の関連に寄与していると思われる。NuA4 は、DNA 損傷部位に直接リクルートされた場合、DNA 修復に直接的な役割を果たす可能性がある。mSin3A 複合体の構成要素でもあり、ヌクレオソームヒストンの脱アセチル化によって転写を抑制する働きをする。類似性: MRG ファミリーに属する。サブユニット: NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体の構成要素で、触媒サブユニット HTATIP/TIP60 とサブユニット EP400、TRRAP/PAF400、BRD8/SMAP、EPC1、DMAP1/DNMAP1、RUVBL1/TIP49、RUVBL2、ING3、アクチン、ACTL6A/BAF53A、MORF4L1/MRG15、MORF4L2/MRGX、MRGBP、YEATS4/GAS41、VPS72/YL1、EAF6 を含む。NuA4 複合体は MYC およびアデノウイルス E1A タンパク質と相互作用する。MORF4L1 は、HTATIP/TIP60 触媒サブユニットを欠くものの、SWI/SNF 関連タンパク質 SRCAP を含む NuA4 関連複合体の形成にも関与している可能性がある。mSin3A ヒストン脱アセチル化酵素複合体の構成要素であり、この複合体には SIN3A、HDAC2、ARID4B、MORF4L1、RBBP4/RbAp48、および RBBP7/RbAp46 が含まれる。MORF4L1 は RB1 および MYST1 と相互作用する。MORF4L1 は PHF12、および転写抑制因子 TLE (transducin-like enhancement of split) ファミリーの未だ特定されていない 1 つ以上のメンバーとも相互作用する可能性がある。MRFAP1 の N 末端と相互作用する。MORF4L1、MRFAP1、および RB1 からなる複合体中に存在。機能: NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ (HAT) 複合体の構成要素で、主にヌクレオソームヒストン H4 および H2A のアセチル化によって特定の遺伝子の転写活性化に関与する。この修飾はヌクレオソーム-DNA相互作用を変化させ、修飾されたヒストンと転写を正に制御する他のタンパク質との相互作用を促進する可能性がある。この複合体は、がん遺伝子およびがん原遺伝子を介した増殖誘導、腫瘍抑制因子を介した増殖停止および複製老化、アポトーシス、および DNA 修復に関連する転写プログラムの活性化に必要である可能性がある。NuA4 複合体の ATPase およびヘリカーゼ活性は、少なくとも部分的には、RUVBL1 および RUVBL2 と EP400 の関連によって寄与されていると思われる。NuA4 は、DNA 損傷部位に直接リクルートされた場合、DNA 修復に直接的な役割を果たす可能性がある。mSin3A 複合体の構成要素でもあり、ヌクレオソームヒストンの脱アセチル化によって転写を抑制する働きをする。類似性: MRG ファミリーに属する。サブユニット: NuA4 ヒストンアセチルトランスフェラーゼ複合体の構成要素で、触媒サブユニット HTATIP/TIP60 とサブユニット EP400、TRRAP/PAF400、BRD8/SMAP、EPC1、DMAP1/DNMAP1、RUVBL1/TIP49、RUVBL2、ING3、アクチン、ACTL6A/BAF53A、MORF4L1/MRG15、MORF4L2/MRGX、MRGBP、YEATS4/GAS41、VPS72/YL1、EAF6 を含む。NuA4 複合体は MYC およびアデノウイルス E1A タンパク質と相互作用する。MORF4L1 は、HTATIP/TIP60 触媒サブユニットを欠くものの、SWI/SNF 関連タンパク質 SRCAP を含む NuA4 関連複合体の形成にも関与している可能性がある。mSin3A ヒストン脱アセチル化酵素複合体の構成要素であり、この複合体には SIN3A、HDAC2、ARID4B、MORF4L1、RBBP4/RbAp48、および RBBP7/RbAp46 が含まれる。MORF4L1 は RB1 および MYST1 と相互作用する。MORF4L1 は PHF12、および転写抑制因子 TLE (transducin-like enhancement of split) ファミリーの未だ定義されていない 1 つ以上のメンバーとも相互作用する可能性がある。MRFAP1 の N 末端と相互作用する。MORF4L1、MRFAP1、および RB1 からなる複合体中に認められる。

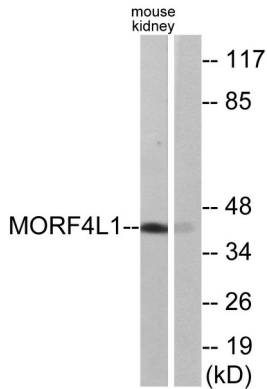
研究分野

-

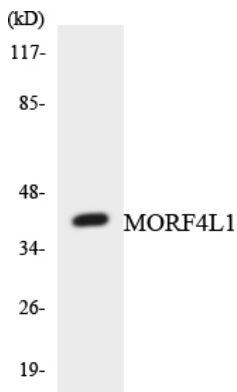
画像データ



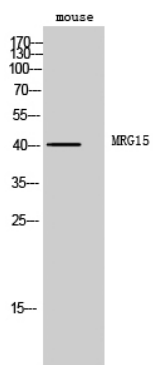
MORF4L1 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



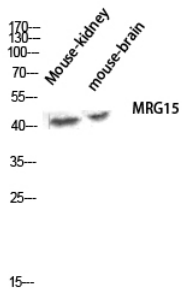
MORF4L1 抗体を用いたマウス腎細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



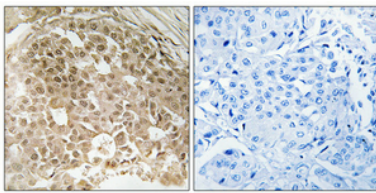
MORF4L1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した MRG15 ポリクローナル抗体を使用したマウス細胞のウェスタンブロット解析。



MRG15 抗体を用いたマウス腎臓およびマウス脳の溶解物のウェスタンブロット解析。
抗体は 1:500 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。